

令和2年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す・聞く」については85.8%と正答率が高くなっている。</li> <li>「書く」「読む」についても正答率は全体として高めたが、「言語」については個人差が見られ、指導の工夫が必要である。</li> <li>「読む」については、文学的文章よりも説明的文章の正答率が低くなっており、論理的文章を読み解く力を付けさせることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的文章の読解において、文章を構造的に捉えられるように指導する。</li> <li>短文を作成したり作文を書いたりする活動を通して、漢字や語彙を適切に使い表現する力を養う。</li> <li>学校図書館を活用し、情報収集の力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くの指導に加え、スピーチと結びつけた取り組みを行い、論理的な思考を育む一助とした。意見文の作成には、インターネットを用いた情報収集力の向上を図った。より効果的の指導の工夫が今後の課題である。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>「計算力などの「技能」は、71%と正答率が高く、日頃の計算も意欲的に取り組んでいる。しかし、「知識・理解」や「思考・判断・表現力」は52%ほどの正答率となった。</li> <li>自分自身で考え、判断する力が課題と考えられる。</li> <li>領域別では、関数が非常に正答率が悪く、生徒も苦手意識を持っているようだ。また数と式の事象の内容を理解することも課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書例題レベルの問題を説明する前に、生徒自身に考えさせ、問題を解いていく時間を設定し、考える習慣を身につけさせたい。</li> <li>関数に苦手意識を持っているが、基礎的な内容は把握している。しかし問いかけの言葉が変わると、途端に理解していたものが崩れてしまうようだ。日頃からいろいろな切り口で質問を考える時間を設定していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解答を見ずに、例題を考えさせる時間を設定し、個別にヒントを出すことで考える習慣が身につけてきている生徒が多い。今後も続けていき、例題レベルを解く力を身につけさせたい。</li> <li>苦手な問題については、時間をかけて考えさせ、解説を理解させていくことが課題である。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「知識・理解」の観点のみ正答率が62%を超えており、復習の学習により、基礎基本が定着してきていることが読み取れる。</li> <li>「思考・判断・表現」の観点は53.7%と伸びなかった。授業内で生徒が既習事項を活用して、思考する学習課題を多く設定していくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業や単元の終わりに、学習した内容を整理するために復習を行っていく。</li> <li>既習事項を活用して思考する学習課題を、計画的に提示していく。また考えた結果をグループで話し合う時間を設け、学び合いを促進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の終わりに、単元を見通した問いに即したまとめを行い、復習の時間を設定することができた。</li> <li>話し合い活動が制限される中で、課題に対して生徒がグループで学び合う学習を充実させていくことが課題である。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「技能」の正解率が高い結果が出たが、授業における、実験・観察により、能動的に受けていた結果と思われる。また、知識・理解の結果が低いのは、家庭学習を含めた、復習の徹底による知識の定着がついていない結果である。今年度の様々な状況により、充分にできていない結果である。</li> <li>課題は1年時の復習、単元の終わりや領域ごとに小テストをするなどが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動などの取り組みを多く入れることにより、自分考えや人の考えに触れることができ、知識の定着にもつながっていく。</li> <li>1学期中の詳細に行うことができなかった「実験・観察」の取り組みを時間の許す限り、取り入れていくことで、実験などの技能の習得だけでなく、再度振り返ることができ、復習の意味合いもできる。</li> <li>1年最終単元「大地の変化」の復習も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験、観察を可能な限り実施したことにより、知識の定着につながった。</li> <li>身近な題材を用いることで、日頃の生活にある科学的なことに興味、関心を持つことができた。</li> <li>今年度は話し合い活動が思うようにできず、また、人前で発言することが苦手な生徒も多くいるため、グループ活動で身に付くことが出来ない面もあった。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。</li> <li>休校により、歌唱表現、リコーダー演奏、グループ練習など、制約が多くある影響があり、更に、1年次で知識・技能未修得の生徒へのフォローの工夫が必要である。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。</li> <li>スモールステップ</li> <li>様々な楽器を体験させる。</li> <li>授業規律の徹底</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板の左端の活用により、短期目標、中期目標を意識させて活動させることができた。表現活動では、管楽器の体験がまったくできなかったが、弦楽器の表現活動ができた。共用楽器の消毒には限界があり、手指の消毒を奨励した。歌唱表現の授業のありかたが課題である。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業でのポイントを良く理解し、活動の充実につなげることができる生徒が多くをみしている。</li> <li>他者と意見交換をしながら自身の活動をより高めようとする姿勢が身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者との関わりから考え気付く活動を表現・鑑賞活動の中で設定し、より協動的な学びの場が増えよう指導内容を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想構想の段階では他者との関わりの時間を段階に分けて取り入れることができた。今後は技能面の学習時にも学び合い活動を取り入れて、技能力向上に繋げていく。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に苦手意識をもっている生徒もいるが、授業に前向きに取り組もうとする生徒がほとんどである。</li> <li>仲間に対する意識がやや希薄であるように感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。</li> <li>課題に対する学習をスモールステップで繰り返し行い、技能の習得に努める。</li> <li>チームティーチングを有効活用し、個別に声かけを行い、技能を習得させていく。</li> <li>班での活動や教え合いの場を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの行事がなくなり、話し合い活動の成果を発揮する機会がなかった中、ダンスの授業ではグループで協力して創作活動行うことができた。トラブルもあったが、貴重な機会であったと思われる。</li> <li>チームティーチングで個別の指導を充実させることができた。</li> </ul>
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業には意欲的に取り組み、クラスメイトと教え合う姿がみられる。</li> <li>理論の習得にも意欲的ではあるが、教科書やワークに掲載されている内容以上の事項については習得しようとはしない生徒が多い。また、教科書やワークの丸暗記で学習を終えてしまう生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策を取りつつ、より周囲の人間と学びを創出しやすい環境を作る。</li> <li>他教科との関連を示唆しながら、学びの奥深さを伝えられるような教科横断的な学習を行う。</li> <li>引き続き進行管理の意識をもたせつつ、技術を適切に評価し活用する能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いくつか平常通りに実施をする事が難しい題材があったが、プリントやワーク等を活用して学習活動を進めた。</li> <li>ICT機器を実態に応じて活用する事が出来た。特に、生徒がICT機器を用いて自分の考えをまとめたり等、積極的なICTの活用を試みた。</li> <li>話し合い活動は実施が難しかった場面があり、考えの共有の点で課題が残った。</li> </ul>
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が意欲的に授業に取り組む様子がある。</li> <li>1年次より継続して単語ビンゴとそのテストを行い、語彙力を高めている。</li> <li>スピーチを始めとするスピーキング活動も繰り返す中で自信をもってよく取り組んでいる。</li> <li>単語レベルであればよく書ける。</li> <li>「学力向上を図る調査」において、文法を理解して正しい語順で英文を書くことに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今の意欲的な態度を大切に、多彩な活動を授業に取り入れ英語学習への前向きな気持ちを今以上に育んでいく。</li> <li>単元の終わりに文法のまとめをして、知識を整理させたり、英語の語順を繰り返し指導して表現力を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たにチャットなど即興で英語を話す活動も取り入れるなど年間を通して多彩な活動を授業に取り入れることができた。</li> <li>苦手とする文法については、主語・動詞の基本の語順など丁寧な指導を継続する。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合」の取り組みでの「行事」(職場体験、都内見学、スキー教室での取り組みなど)の代わりに活動を教科を通して行うことを期待したが、調べ学習や話し合い活動が思うようにできないことが大きな課題である。今後代替えとして「職業人の話を聞く会」を3学期予定している。キャリア教育の「上級学校調べ」の活動を始めることができた。将来に向けて、考えるきっかけになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習、話し合い活動や職業体験によって得られる様々なことを他の活動からどのように習得させるかを再構築していく。また、行事なども制限されていく中で、日常生活から得られる小さいことも積み重ねていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は学校として、総合を各教科に割り振ったので最低限の活動しかできなかった。その中でも「法教育」「留学生が先生」「3年生の話を聞く会」など有意義な活動はできた。また、進路学習も内容濃く活動できた。来年度からは「郷土」を意識した活動を全学年取り入れる中で、今年度活動できなかった調べ学習を取り入れる。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が意欲的に授業に取り組む様子がある。</li> <li>話し合い活動も繰り返す中で生徒連日進行しながら進め、意見の交流をすることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが意見を言いやすい環境を作り、誰もが安心して授業を受けられるようにしていく。</li> <li>自分の考えについて「なぜ」そう考えるかも話したり、書いたりして道徳の価値項目についてより深く考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常話し合い活動に加え、詩の創作やKJ法などの工夫を凝らしながら授業を行うことができた。</li> <li>「なぜ」そう考えるかという理由を考えることは来年度も継続して指導にあたる。</li> </ul>